



Senior Seminar 紹介



授業テーマ

小山 薫 ①

- I. 異界伝承にみるイギリス—異教文化とキリスト教
- II. 異教文化とキリスト教—ゼミ論文作成

授業の概要

I. 「若者の教会はなれ」がとりざたされる今日にあっても、キリスト教が比類ない影響力を 英米文化に与え続けていることは否定のしようもない。そこにルーツをもつさまざまな概念や思想、風習はいまもイギリス社会のすみずみにまで息づき、それぞれの地域の風土や歴史、国民性に味つけられて、この国の多様性の一端を示している。そしてその鍵となるのは、ケルトを始めとする土着の異教文化だといえよう。教会や美術館で、また街角のパブサインにさえ、異教文化はキリスト教と絶妙に共存、融合し、イギリス文化の大きな特徴となっていることを実感する。本講座では、イギリスの異界伝承を手がかりに、神、天使、聖人（聖女）に代表されるキリスト教世界の〈光の領域〉を、悪魔、魔女、人魚、妖精、幽霊の出没する〈闇の領域〉とともに分析する。文学や映画、美術、音楽、フェミニズムとの関連を確認しつつ、異界伝承の多面的魅力について知識と理解を深めたい。

II. Senior Seminar Iで修得した知識（イギリスの歴史、異教文化、キリスト教文化、 フェミニズムなど）を土台として、各受講生が個々のテーマにもとづき、科目担当者との意見交換や、クラスでの口頭発表&ディスカッションをへて、レポート作成と修正を繰り返しつつ、ゼミ論文を完成する。

授業方法

I. 講義やグループ発表、ディスカッションをとりまぜた授業となる。十分な予習をして、毎回無遅刻・無欠席で授業参加することが基本となるが、知的好奇心と意欲を持って自主的に学ぶ受講生ならば、成果は大きいはずである。

II. 講義や個人発表、ディスカッションをとりまぜた授業となる。各自、小山とアポイントメント（授業外）をとって意見交換し、ゼミ論文を書き進める一方で、毎回無遅刻・無欠席で授業参加することが基本となるが、知的好奇心と意欲を持って自主的に学ぶ受講生ならば、成果は大きいはずである。

小山 薫 ②

到達目標

- イギリスの異界伝承に関する知識（ケルト文化、妖精伝承、人魚伝承など）の修得
- イギリスのキリスト教文化に関する知識（天使悪魔、悪魔伝承、聖人伝承、魔女伝承など）の修得
- プリゼンテーション力（デリヴァリー、パワーポイントのスライド作成、ハンドアウト作成）の向上
- ゼミ論用テキストとテーマ、主要参考資料の決定に至る、着実な準備
- 各自のテキストとテーマに基づいて、「序」→「概略」→「ボディ」→「結論」に至る、効果的なアウトラインを作り、クラスでの個人発表や、指導教員（小山）との意見交換を経て、補筆や修正を加えつつ、少しずつ書き進めて、ゼミ論文を完成
- 参考資料の取り扱いや注記方法に関する、基本ルールの修得
- 自分の考えを自分のことばで、効果的に文字で伝える方法を修得
- 年明けの卒業研究発表会での、プリゼンテーション力（デリヴァリー、パワーポイントのスライド作成）の一層の向上
- 英語圏の文学作品やその歴史的変遷について十分理解している
- 英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識をもっている
- 言語自体の成り立ちと現代社会におけるその役割について理解している
- 統語、語彙、発音など英語と日本語の言語構造のそれぞれの特徴について理解している
- 英語と日本語によるコミュニケーションの共通点や相違点について理解している
- 社会言語的な観点から文化とコミュニケーションの関係性について理解している

授業の概要

映像作品だけでなく、文学、音楽、テレビ、絵画、写真等の表現媒体を研究することにより、白人男性を中心としたかつてのアメリカ的価値観を見直す視座を得ることにより、多様な観点からアメリカを理解する。

到達目標

- * アメリカ文化全般にわたる知識を深める。
- * 固定観念にとらわれない柔軟な観点を得る
- * 自ら関心をもつ項目を定めて、意欲的に研究する
- * 英米文学基礎ゼミナールで習得したスキルをベースとして発表をし論文を仕上げる。

授業方法

講読、発表が中心となるが、AV教材を利用した講義やディスカッションも行う。

授業の概要

この十数年間ジェイン・オースティンの作品は映画化されたり（『プライドと偏見』、『いつか晴れた日に』等）、BBCでドラマ化されたり（『高慢と偏見』）、あるいは作者をヒロインとした映画が作られたり（『ジェイン・オースティン：秘められた恋』）、パロディー作品が作られたり、（『高慢と偏見とゾンビ』）、世界的にジェイン・オースティン・ブームがずっと続いている。それほど劇的な恋愛があるわけでもなく、ヒロインたちが紆余曲折を経ながら結婚にたどり着くハッピーエンドのオースティン・ワールドが、時空を超えて21世紀の私達に訴えかけるどんな魅力を持っているのだろうか？当時の時代背景を踏まえながら、作品講読を通して、ヒロインたちの人生観や結婚観などを中心に、現代女性の行き方に通じるヒロインたちの魅力を探っていく。なお、個人研究として当時のイギリス文化について研究してもよい。

到達目標

- （１） 18世紀の英語で書かれた文学作品をちゃんと読破すること。
- （２） 18世紀イギリスの時代背景を理解すること。
- （３） 各自卒業研究のテーマを決めて、研究概要をポスターセッションで発表すること。
- （４） 卒業研究発表会を経て、卒業研究を論文の形で完成させること。

授業方法

春学期の授業は作品の講読を中心に進めていくが、各自が研究書などを参考にして、自分の研究テーマを見つける。

秋学期は、個人研究の発表が中心となるが、発表を元に各自卒業研究の論文の作成に取り組む。

T.L. Medlock

Text and Performance

授業の概要

The emphasis of this course is on developing performance skills through studying and rehearsing literature written for performance. We will read a play or excerpts from a play and see how dramatic theme and tension are developed, and then rehearse the play for a partial or full performance at the end of the year, depending on numbers in the class. As we do so, we will learn about building a character for performance and develop the skills necessary to bring a performance alive: voice projection, intention, irony, timing, movement and collaboration. The choice of text or texts will depend on the number of students enrolled. Plays performed in the past have included *The Importance of Being Earnest* by Oscar Wilde, *Pygmalion* by George Bernard Shaw and *Blithe Spirit* by Noel Coward.

到達目標

1. Develop vocal and physical performance skills.
2. Develop analytical ability of dramatic literature including such aspects as characterisation, irony, plot structure and theme.
3. Increase understanding of British society and culture.

授業方法

Students are expected to read excerpts of texts in both Japanese and English in advance and to summarise the development of the story and its characters. In class students will read the play (or excerpts) and discuss the development of characterization and theme. There will also be regular practice in developing vocal skills in English, such as intonation, articulacy and projection.

福島 祥一郎

19世紀アメリカ文化表象と現代アメリカ

授業の概要

私の専門は19世紀中頃のアメリカ文学、特にポーやホーソンを中心としたアメリカン・ルネサンス期の文学です。この時期のアメリカは、独立後の混乱期を経て、ようやく独自の文化を形成しはじめた時期でありながら、その背後で様々な矛盾が生れていた時代でもあります。ただし、4年次ゼミではアメリカン・ルネサンス期の文学・文化に限定せず、より広く、自分の関心のあるアメリカ文学・文化について研究を深めてもらいます。春学期は7月のポスター・セッションに向けて、秋学期は卒業研究の完成に向けて個別の発表が中心となりますが、各自の研究に有益と思われることを数回に分けて講義・ディスカッションします。テーマとしては、都市社会、女性表象、人種と差別、アメリカ拡張主義、19世紀文学の現代における受容・アダプテーションなど。現代（アメリカ）の問題がいかに19世紀の文学・文化と関係しているかを理解し、より重層的な研究ができるような道筋を作ることが狙いです。皆さんが抱えている問題意識を大切にしつつ、そこから発展的にアメリカ文学・文化を研究し、混迷の現代を生きるうえでの新たな視点を獲得してもらえれば望外の喜びです。

到達目標

物語の背後にある歴史的・社会的コンテクストを読む力をさらに養い、自分の問いについて、論理的・客観的に研究を進め、卒業研究の完成を目指します。

授業方法

発表形式（個人発表とディスカッション）を主としますが、テーマについての背景知識、時代状況について、必要に応じて講義、必須となる文献の紹介・精読も行う予定です。

授業テーマ

辻 英子

I. 英詩研究①

II. 英詩研究②

授業の概要

I. このクラスでは英詩の研究を行う。英詩の芸術性について書かれた英文テキストを読み、詩の形式と内容の関わりについての理解を深めた上で、エリザベス朝から現代までの多様な詩を取り上げ、分析、朗読をする。

II. このクラスでは英詩の研究を行う。Senior Seminar Iに引き続き、英詩の芸術性について書かれた英文テキストの精読をすると同時に、各自で卒業論文作成に向けて研究テーマを決め、口頭発表をする。1月の卒業研究発表会では論文内容についての口頭発表に加えて、個人またはグループで詩の朗読発表をする。

到達目標

- ・英詩の研究を通して、英文学の理解を深め、英語の音声表現力の向上をはかる。
- ・英語圏の文学作品やその歴史的変遷について十分理解している。
- ・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持っている。

授業方法

I. 毎回の授業で英文テキストを数ページずつ読み進む。テキストの内容についてのディスカッションや詩の朗読練習（個人及びグループ）も行う。学期末にはクラス内での詩の朗読発表会と定期試験を行う。

II. 毎回英文テキストの精読に加え、各自が詩についての様々なテーマについて口頭発表をすると同時に論文執筆を進める。また、1月の卒業研究発表会に向けて、朗読の練習をする。

風間 末起子

『嵐が丘』から見る19世紀のイギリス文化

授業の概要

・この授業では、文化研究の材料として小説『嵐が丘』（1847）を使用することによって、19世紀のイギリス・ヨークシャーを舞台に展開するエミリー・ブロンテの世界を楽しみたい。

・春学期は、(1)ハワースのエミリー・ブロンテの生涯、(2)映画化された『嵐が丘』と原作との比較、(3)『嵐が丘』と食器、(4)インテリア小説としての『嵐が丘』、の4つのテーマのもとで学習していく。

・秋学期は、春学期の続きとして、(5)キャサリンとヒースクリフの愛（の謎）、(6)『嵐が丘』と幽霊/キャサリンの死生観（キリスト教との比較）、(7)シンボルとイメージ、(8)ゴシック小説として読む『嵐が丘』/ Gothicという概念、の4つのテーマのもとで学習していく。

到達目標

- ・英語圏の文学作品やその歴史的変遷について十分理解している。
- ・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持っている。

授業方法

関連の作品・研究書・文献を使って、精読と発表形式（グループごと）で授業を進めていく。受講生の人数に応じて授業方法を工夫していくが、基本的にはプレゼンテーションとディスカッションを行う。

若本 夏美 ①

Researching English as a global lingua franca (i-Seminar XX)
Writing a graduation thesis on the issues of English as a global
lingua franca (i-Seminar XX)

授業の概要

This seminar discusses what learning or teaching English as a global lingua franca (EGLF) means and researches this issue in the Japanese context. At the same time, we examine the impact of learners' characteristics such as motivation, culture, aptitude, personality, and so on. This seminar is called “i-Seminar,” which indicates internet-seminar or I (me)-seminar. Accordingly, the internet (use of computers, smartphones, LINE, Facetime, Instagram, etc.) is encouraged to be used inside or beyond the session. This seminar will be categorized in the field of Applied Linguistics (the study of teaching/learning/using a second/foreign language).

到達目標

Goals of the spring semester are three-fold: (1) to get to know each other; (2) to familiarize themselves with reading English written articles and write critical summaries about them; and (3) to understand the concept of EGLF. At the end of the spring semester, participants are expected to know what they are interested in, that is, their Research Questions (RQs) for the thesis. At the same time, participants are expected to acquire solid English proficiency, logical thinking, and beautiful friendship, which will undoubtedly be their assets in their future life and career.

Goals of the autumn semester are three-fold: (1) to actually conduct their own research (data collection and their analysis); (2) to establish supportive surroundings; and (3) to write a good graduation thesis. At the end of the autumn semester, participants are expected to find ways of collecting/processing/synthesizing data, know the answers to their Research Questions and to write a thesis in English. At the same time, participants are expected to acquire solid English proficiency, logical thinking, and beautiful friendship, which will undoubtedly be their assets in their future career and life.

若本 夏美 ②

授業方法

Most of the time is allocated to reading relevant journal articles (e.g., ELT Journal) regarding EGLF and Second Language Acquisition so that participants have a solid theoretical foundation in this area. One journal article is assigned for each session, which implies that participants read more than ten articles in spring. In the process of reading, participants are expected to find their own RQs for their graduation thesis, which will be presented at the 18th Poster Session of English Department (July, 2020), where each participant presents their RQs in English and obtain feedback from the audience (other students, teachers, and the general public). This seminar is conducted bilingually (mainly in English).

Most of the time is allocated to discussions on how to write a good thesis, workshops on it, and participants' presentations so that all the participants could submit their theses by due time (December 20, 2019). Participants have several opportunities to present the chapters of their thesis. To facilitate the process of writing the thesis, we will take several approaches (e.g., utilizing study groups or the internet). The thesis is to be written following the APA 6th edition. The thesis is to be presented at the 18th Bachelor Thesis Presentations of the English Department (January 2021). Statistical software (SPSS 25) is also used. This seminar is conducted bilingually (mainly in English).

授業の概要

このコースでは、Junior Seminar I & II をさらに発展させ、言語音についてゼミ生ひとりひとりが研究テーマを設定し、その研究成果を論文としてまとめることを目標とする。言語は我々の生活に不可欠なものであり、言語は音声そのものである。そのためこのコースでの学びによりphonetics, phonology, sociolinguistics, psycholinguistics, language acquisition, language processingなど、さまざまな分野へと興味が広がることを期待する。

到達目標

個人の卒業研究テーマに基づき準備をすすめ、卒業論文を完成させる。

- ・与えられたデータ（音声）と向き合い、そこに隠れている音韻ルールを見つけることができるようになる
- ・英語と日本語のそれぞれの言語構造の特徴について理解できるようになる
- ・言語に関する社会問題や異文化に対する強い関心を持つことができるようになる
- ・自らの意見や考えを分かりやすく表現できる力を身につける
- ・ゼミを通して、自らの置かれた立場での役割・責任、リーダーシップを発揮しようとする意欲を高めることができるようになる
- ・自らか定めた目標に向かい「計画的×継続的×積極的」に物事を進めていくことができるようになる

授業方法

このコースは、Senior Seminar II において卒業論文を完成させるための基盤となるところの課題提出、発表、ディスカッションを中心に行い、ゼミ生のリサーチ・トピックにおける知識や理解を確認する。また、ゼミ生間の親睦を深めるため、ゼミ合宿（夏期休暇中）を行う。

授業の概要

In this course, we will cover various aspects of interpersonal communication, that is, communication between people in friendships and family relationships, as well as proposing a research projects related to interpersonal communication, including participating in the poster session.

到達目標

Gaining a deeper understanding of interpersonal communication and its application to daily life.

授業方法

Students will read about interpersonal communication, discuss what they have read, and work on research projects. They will also participate in a poster session about their research at the end of the spring semester.

授業の概要

I: This course will expose students to topics of intercultural communication such as diversity, education, gender and other related genres. This course also aims to train students to write academic research papers and make formal academic presentations.

II: This course will expose students to topics on intercultural communication and competency, as well as to train students to write academic research papers and make formal academic presentations. A wide range of topics on intercultural communication will be discussed and studied in class. Further discussion of these topics will be made through group work, oral presentations and written assignments. Students must write a final report and do an oral presentation at the end of the course.

到達目標

I: A wide range of topics on intercultural communication will be discussed and studied in class. Further discussion of these topics will be made through group work, oral presentations and written assignments. Students must write a final report and do an oral presentation at the end of the course.

II:

- (1) Students will explore and examine topics on intercultural communication and social diversity
- (2) Students will practice analytical skills and critical thinking
- (3) Students will learn about the different societies around them from various perspectives

授業方法

The class will be conducted through group discussion and project-learning. The students will be exposed to different types of information through media (film, news, short film clips) and assigned readings from books and academic journals.

Shakespeare Production III



授業テーマ

Romeo and Juliet 上演

授業の概要

In this class we will stage a production of the text studied in Shakespeare Production I & II, namely Romeo and Juliet, with the aim of deepening our appreciation of the play. In the practical undertaking of such a complex and ambitious task, it is absolutely necessary for participants to work together selflessly and harmoniously and to demonstrate a consistently positive and industrious spirit. This task requires great time and great physical and emotional energy. Everyone who joins must be ready to commit wholeheartedly.

到達目標

1. Develop analytical ability of dramatic literature, and appreciation of Romeo and Juliet in particular.
2. Develop performance skills, especially related to the dramatic expression of English (pronunciation, intonation, rhythm, irony etc.).
3. Develop other creative skills necessary to the staging of a large-scale project
4. Develop organizational and interpersonal skills.
5. Develop understanding of English poetics.

授業方法

Students participate in both general meetings and in their respective activities as cast or staff. The supervising teacher acts in an advisory role and encourages students to be independent and responsible in their activities.